

創立120周年 過去、現在、そして未来へ

学校長 横山 豊



私が鶯谷女子高等学校に英語科の教員として奉職させていただいたのは昭和53年(1978年)のことで、1年目は非常勤講師でした。そして翌年教諭となり、初めて担任させていただいたのは普通科進学コースの48名でした。

当時、1歳上の親しかった社会科の教員と、仕事帰りにほぼ毎日喫茶店で学校教育の話ばかりしていました。当時の私は大学を卒業したてでとても青臭く、身の程知らずで、「将来鶯谷を、自分たちの力で岐阜県一の理想の私立名門高等学校にしたい」と偉そうに熱く語っていました。

45年の歳月は流れ、現在、過分で名誉なことに、初代の佐々木とよ先生から数えて第13代目の校長を務めさせていただいております。創立以来この3月で、卒業生数は26,698人となりました。この間に鶯谷女子高等学校は男女共学となり、名称も鶯谷高等学校となりました。さらには中学校の募集が再開され、中高一貫教育も始まりました。また現在では普通科のみの進学校になりましたが、私が勤め始めた頃は商業科、家庭科、音楽科などの科もあり、多くの卒業生が今も様々な分野でご活躍をされています。

現在、鶯谷高等学校は、「岐阜県一の私立進学校」と呼ばれるまでになりました。劇的な変化、進化を遂げてきた45年間だったと言えます。

英語の授業では「時制」を説明するときに、「時の直線」という矢印を黒板に描きます。まず左の端には「過去」と書き、そこから直

線を伸ばして中間地点には今この瞬間の「現在」という点を描き、その上に「現在」と書きます。そして右に向けて矢印を伸ばしていき、その先には「未来」と書きます。真ん中の点が、今この瞬間である「現在」。1秒でも時間が過ぎれば、そこは「過去」。「現在」から右側はすべてが「未来」です。この「時の直線」を常に意識させながら、英文を読んでいきます。

さて、鶯谷高等学校には1903年10月18日からの120年の長き歴史、つまり「過去」がありました。今、私たちは鶯谷中学・高等学校の「現在」という点上で、進行形の状態にいます。そして矢印の指す先には、希望に溢れた「未来」が待っています。

これから始まる鶯谷の未来は、「岐阜県一の私立の進学校」から「岐阜県一の進学校」となることを目標に、一步ずつ確実な歩みを進めていくものとなるでしょう。そしていずれは、全国からも認められる名門校となるはずです。

在校生の皆さん、夢の実現に向けてがんばりましょう。そして、卒業後も末永く母校を愛し、母校の発展を見守り続けてください。

